

インドネシアだより

海上保安体制強化プロジェクト

インドネシアの海上保安体制強化を支援する国際協力の機構（JICA）の技術プロジェクトが5月、海上保安庁からの長期専門家派遣を受けて始まった。同プロジェクトの3年間の活動を随時紹介します。

会場の喧騒と、生活環境の違いに、日本から来た多くの人はカルチャーショックを受けるのではないかと思う。

到着後の数日間は、5月末までインドネシア海運総局に個別専門家として海上保安庁から派遣されていた西分竜二氏（後任は田中幸氏）の案内で関係機関を訪問したり、住宅探し（各々の住居は着任後に自分で探す）、業務の引き継ぎを

行う。西分氏は、3年間の裏腹に私たちの事務室はいまだに、日本から来た多くの人はカルチャーショックを受けるのではないかと思う。

到着後の数日間は、5月末までインドネシア海運総局に個別専門家として海上保安庁から派遣されていた西分竜二氏（後任は田中幸氏）の案内で関係機関を訪問したり、住宅探し（各々の住居は着任後に自分で探す）、業務の引き継ぎを

いよいよ始動 胸熱く

期待の大きさをひしひし

なければならぬ。

6月2日、バコルカマラ

のジョコ・スマルヨ事務

局長ら幹部との初顔合わせ。

日本からは大使館、JICAインドネシア事務所

関係者も列席。共同記者会

見も行われ、インドネシア

でのプロジェクトに対する

期待の大きさを感じ、いよ

いよ始動するプロジェクト

に胸を熱くする。

ところが、その期待とは

し方ないのだが、3年後に

いよいよ始動するプロジェクト

に胸を熱くする。

ところが、その期待とは

し方ないのだが、3年後に

トを立ち上げた最大の功勞者だ。彼の昼夜を違わない

インドネシアでの活動は、

ジャカルタ在住の日本人の

中でも群を抜いており、「ジ

ヤカルタで最も有名な日本

人」とも言われている。彼

のこれまでの苦労に報いる

ために私たちががんばら

なければならない。

初会合から2日後、バコ

とおりだ。私生活でも随所

で気づかされるのだが、こ

の国は大変ルーズでいいか

げんだが、信じられない底

層は、一日でも早く私たちが

インドネシア語を覚えなけ

ればならない。

現在はプロジェクトの具

体的な計画策定のため、連

日バコルカマラ職員、各ス

テックホルダーと意見交

換。7月24日から27日まで

は、バコルカマラが主催し

た関係機関が合同で実施する

海賊対策などの海上オペレ

ーションに参加した。

今後、海上保安庁が協力

してインドネシアで行われ

ているプロジェクトの進ち

よくやインドネシアの文

化、生活などを伝えたい。

（JICA長期専門家・榎

本雄大）



共同記者会見するジョコ事務総長（右から2人目）と平家チームリーダーら